

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	つどいの広場事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	保健福祉部	課等名	子育て支援課		包含する細々目	1	3	2	8	11	3	9,770
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり											
施策	37 子どもを産み育てやすい環境の充実											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 次世代育成支援対策推進法 飯田市次世代育成支援行動計画						
		事業期間	17	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	主に乳幼児の親子	3歳未満児数(各年4/1.住基+外登)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			2978	2500			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	家庭での子育てを、密室型育児から地域子育てに転換し、「孤独な子育て」を解消する。未満児の親子がつどい、学びあいながら、育児を喜びと実感する。	つどいの広場設置数	18目標	5	最終目標	8	21
			18実績	4.5	19目標	6	↑
			23目標		23実績		最終目標達成年度
		つどいの広場延べ利用数	18目標	7000	最終目標	15000	21
			18実績	12607	19目標	13000	↑
23目標				23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	飯田市次世代育成行動計画の最重要課題である、「親の育児力向上」と「子育ての行き詰まり防止」対策事業。主に乳幼児を持つ親子が日常的に集う「親子通園施設」。 「孤独な子育て」を解消するとともに、育児に対する「知識・技術・自信」を身につけるため、次の役割を担う。 育児についての情報交換や学びあひ。 「子育てはたいへんだけど喜び」という子育て意欲をつくり出す。 子育てアドバイザーが育児相談や育児関連情報を提供。 安易に未満児保育に頼らないで、親自身が子育ての醍醐味を実感できる環境の充実につながる。 財源は、17年度から、次世代育成支援対策交付金(週3以上開所1所あたり3,400千*国庫1/2)	つどいの広場の設置及び運営補助。 設置数を4.5か所に拡大。 公営2.0(座光寺つどいの広場・松尾つどいの広場) 民営2.5(おしゃべりサラダ・ひだまりサロン・くまさんのうち) *ただし「くまさんのうち」はサービス量が国の規定(週3日以上)に達しないため0.5に換算。	つどいの広場設置数(か所) つどいの広場実施延日数(日)	4.5 860
		つどいの広場の設置及び運営補助。 設置数を5.5か所に拡大。 公営2.0(座光寺つどいの広場・松尾つどいの広場) 民営3.5(おしゃべりサラダ・アイキッズスクエア・ひだまりサロン・くまさんのうち) 発達支援学級の実施 発達障害等が心配される幼児の親子学級。週2日実施。	つどいの広場設置数(か所) つどいの広場実施延日数(日) 発達支援学級実施延日数(日)	5.5 1000 74

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金	4,192	4,785
	県支出金		
	起債		
	その他	173	200
	一般財源	4,192	4,785
事業費計(A)	8,557	9,770	
人件費	正規職員所要時間	18年度 300	19年度 300
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	1,073	1,073
	トータルコストA+B	9,630	10,843

特定財源内訳や補足事項	次世代育成支援対策交付金(国1/2) 子育てサロン事業補助金(県1/2)
-------------	---

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値				
	子どもを育てやすい環境の充実	子どもを育てやすい社会環境であると感じている対象者の割合	現状値	55.8	19実績		
			20実績		21実績		
			22実績		23目標	60	
			現状値		19実績		
			20実績		21実績		
22実績				23目標			

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
次世代育成支援飯田市行動計画によって、17年度から新たに重点的に取り組むべき課題として取り上げられた。	つどいの広場事業は、次世代育成支援対策の目玉事業として平成15年から創出された国庫補助事業。平成16年度より、開設後3年間のみ補助対象としていた年数制限が撤廃され、恒久的事業に見直された。 平成17年度からは、次世代育成支援対策交付金の事業に統合された。 また、国庫補助の対象にならない一日5時間未満の事業については、県単「子育てサロン事業」の対象とされた。	次世代育成支援行動計画の進行に当たり、市民代表による地域協議会の設置が義務づけられている。地域協議会は、いわゆる親育ち支援施策の柱として「つどいの広場」事業の展開を要望している。 飯田市議会(17年6月及び9月)でも、設置数拡大の質問等が出されており、計画に基づいて拡大の方向性を答弁している。

## 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

## 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	行動計画に基づき、H17)3施設、H18)5施設に拡大した。 19年度はさらに1施設を増設予定。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	さらに、21年度までに8施設まで拡大する予定。

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	